

サクソフオーン オーケストラ 冬の演奏会

2022年12月21日(水) 開演 18:30 開場 18:00
洗足学園 前田ホール



演奏：洗足学園音楽大学

サクソフオーン・オーケストラ

指揮：大井 剛史

曲目 E. エルガー／弦楽セレナード

酒井 格／森の贈り物

高 昌帥／吹奏楽のためのバラッド

R. コルサコフ／交響組曲「シェヘラザード」

* 新型コロナウイルスを防ぐためのお願い

- ・ マスク着用の徹底、こまめな手指消毒、手洗い、咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・ 大声や対面での対話での会話はお控えください。
- ・ 演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・ 休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・ 客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・ 出演者への面会はできません。出演者への花束
- ・ プレゼントもご遠慮ください。
- ・ 万一、集団感染の発症が明らかになった際は、保健所に入退場の情報を提供する場合がございます。



主催：洗足学園音楽大学・大学院

ご挨拶

今年も後僅かとなりましたが、本日は2022年度“サクソフーンオーケストラ冬の演奏会”にお運び頂き、誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながらコロナ禍も3年が経ちましたが、当団としてはフレッシュな新入生を大勢迎え、上級生も立派に成長し、お陰様で創立27年目を盛況に迎える事ができました。

コロナ禍により、リモートによる授業も行われましたが、やはり音楽は対面でその瞬間を見聞きすることがとても貴重で、心が揺さぶれる程感動を味わえる、特殊な分野だと改めて感じました。

本日メインプロでお届けします、R.コルサコフ作曲「シェエラザード」は名曲中の名曲と知られ、難易度も高く中々全曲演奏する機会に恵まれないと思いますが、主人公が語る“千夜一夜”をどうぞお楽しみ下さい。前半では、同族楽器ならではの選曲で弦楽アンサンブルの為のセレナーデ、続きます人気の吹奏楽曲は、作曲家に直接許可を頂き演奏可能となりました。別の世界観を味わって頂けますと幸いです。

来年度は本学創立99年を迎え再来年は100周年と、とてもお目出度い年回りとなります。当団も益々切磋琢磨しながら、未来へ向かって進みたいと思います。

どうぞ、ご支援ご鞭撻頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。

サクソフーン・オーケストラ 企画運営責任者
教授 岩本 伸一

本日は、2022年度サクソフーンオーケストラ冬の定期演奏会にお越し頂き、誠に有難うございます。夏の演奏会に引き続き、皆様に私たちの演奏をお届けできることを大変嬉しく思います。一年間を通し、今日まで私たち学生は日々多くの壁にぶつかり、様々な葛藤をし、練習に励んでまいりました。本演奏会は一年間の授業の成果をお客様に披露することのできる、いわば集大成の様な演奏会であると考えております。

サクソフーンオーケストラは、吹奏楽やオーケストラとは違い、サクソフーンと打楽器のみで編成されています。そのため、音域が限定的になるのではないかとと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、本学ではソプラニーノサクソフーンからコントラバスサクソフーンまで揃え、本来のオーケストラにも劣らない、またサクソフーンだからこそ奏でることのできる力強い強奏も持ち合わせた充実したサウンドをお楽しみ頂けると思います。

本日のプログラムでは所々に各楽器のソロもありますので、ぜひ注目してお聴き下さい。前期に行われた夏の演奏会は、残念ながら新型コロナウイルスの影響で延期となってしまいましたが、その際も本当に多くの方々に支えて頂きました。普段ご指導頂いております先生方や助手の方に加え、保護者の皆様や演奏会を聴きにきて下さる予定だったお客様からも多くの温かいメッセージを頂きました。誠に有り難うございます。最後になりますが、本日は本演奏会に足を運んで頂き誠に有難うございます。最後までゆっくりお楽しみ下さい。

洗足学園音楽大学 サクソフーンオーケストラ
学生代表 楠本 夢菜

Program

エドワード・エルガー(1857~1934) / 弦楽セレナード ホ短調
Edward Elgar / Serenade for Strings in E minor

酒井格(1970~) / 森の贈り物
Itaru Sakai / Legacy of the Woods

高昌帥(1970~) / ウィンドオーケストラのためのバラッド
Chang Su KOH / Ballad for Wind Orchestra

休憩

ニコライ・リムスキー=コルサコフ(1844~1908)/シェヘラザード
Nikolai Rimsky-Korsakov/Scheherazade

指揮：大井 剛史

演奏：洗足学園音楽大学 サクソフーン・オーケストラ

(全編曲：岩本 伸一)

エドワード・エルガー(1857~1934) / 弦楽セレナード ホ短調 (編曲 岩本伸一)

Edward Elgar / Serenade for Strings in E minor

エルガーは、1857年イギリス中西部ウェスター近郊のロウアー・ブロードヒースに7人兄弟姉妹の4番目として生まれる。エルガーは8歳になるとピアノ調律師で楽器商を営み、オルガニストであった父親であるウィリアムから音楽を教わり始め、10歳で作曲を始めた。しかし、経済的に恵まれなかったため正規の音楽教育を受けることができなかった。やがて地元弁護士の元で事務員として働き始めるが、数ヶ月で辞めてしまう。その後は父の仕事を手伝いながら音楽の勉強を続け、エルガー自身も音楽教室を開きヴァイオリンやピアノを教えて生計をたてていた。エルガーはロンドンへ通ってはさまざまな音楽に接し、シューマン、ワーグナーの作品に強く影響を受けたとされている。作曲家として成功したのは40代になってからと遅咲きだが、「威風堂々」や「愛のあいさつ」など、エルガーの作品は今でも世界中の人々に愛されている。

《弦楽セレナード》は、エルガーの作品のうちでも特に早い時期に広く認められた作品の1つである。1888年、ウスターのアマチュア団体を指揮して「弦楽オーケストラのための3つの小品」を初演しているが、これが改作されて「弦楽セレナード」になったものと推測されている。“セレナーデ”というのは、もともとは、恋人の部屋の窓の下で演奏したり歌ってきかせる音楽のことで、それがいつしか、音楽のひとつのジャンルとして成立するようになった。作品が「セレナード」として完成したのは1892年5月で、妻のキャロライン・アリスに、3回目の結婚記念日のプレゼントとして贈られた。他にも有名な「愛のあいさつ」は、1888年キャロライン・アリスとの婚約記念に贈られている。第1楽章は、アレグロ・ヴィヴァーチェの指定ながらどこか憂いを秘めており、第2楽章では深い抒情に満ちた旋律が歌われる。軽快なフレーズに揺れるうちに、第3楽章で第1楽章の主題に回帰する。

(3年 渋谷瑛奈)

酒井格(1970~)/森の贈り物 (編曲 岩本伸一)

酒井格は日本の作曲家・編曲家。大阪府枚方市出身。4歳よりピアノを始め、6歳でピアノ曲を作曲。大阪府立香里丘高等学校では吹奏楽部に所属し、3年生の時に作曲した「The Seventh Night of July」が、大阪音楽大学在学中にオランダのデ・ハスケ社から出版され、作曲家として広く知られる。

今回演奏する「森の贈り物」のモチーフは日本の南西部、鹿児島県の屋久島という深い森に覆われた島があり、屋久島のような豊かな恵みを残してきてくれた多くの森が、これからは私たちの手によって守られていくことを願って、この作品を書きました。と作曲家本人が記している。短い序奏に続いて、優しい鐘の音と共に Sprano Sax のソロが流れ出し曲が始まる。“森の精が優しく語りかけるような”と表現されるソロである。序奏部の再現に続いて新たな旋律が Alto Sax に現れ、Soprano Sax へと受け継がれていく。さながらさまざまな精霊たちの歌声のようなメロディーが、ハーモニーによって音楽の雰囲気が変わる所も聴きどころである。続いて序奏部旋律が拡大されて現れた後、Baritone Sax のソロが朗々と歌われる。きっと作曲家コメントにある“森の長老の語り”なのだろう。一旦静まり、Alegretto 4/4 拍子の行進曲が始まる。リズムックだがひそやかなスネアに導かれて Harp が鳴り、遠くから愛らしい“森の生き物たちの行進”が近付いてくる。徐々に姿が大きくなって悠然とした行進となるが、どこかユーモラスで可愛らしい音楽の性格が失われることはない。

(3年 葛城輝)

高昌帥(1970~)/ ウィンドオーケストラのためのバラッド (編曲 岩本伸一)

高昌帥(こう ちゃんす 1970年-)は大阪府出身の作曲家、指揮者。管弦楽、室内楽など幅広いジャンルの作品を手がけるが、特に吹奏楽の分野へ積極的に作品を提供している。

今回のプログラムである“ウィンドオーケストラのためのバラッド”は西宮市吹奏楽団創立50周年記念に贈呈された楽曲であり、高氏のルーツである朝鮮の伝統音楽の要素がふんだんに詰め込まれているものとなっている。例を挙げると、強弱アクセントの明確な3分割リズム、又は3拍子系の拍節法(6/8、9/8、12/8拍子など)を基本とするリズム周期があり、そのリズムパターンを長短(チャンダン)と言いこの朝鮮独自のリズムが使用されている。この力強いリズムと、哀調に帯びた艶やかな旋律の対比が美しい。またバラッドとは口承により伝承されてきた英語圏の民謡で、物語や寓意のある歌のことであり、通常は詩の語りや語るような曲調を含むものである。曲の冒頭は正にその通りで、私たちの心を惑わすかのような語り部の言葉に聞こえてくるだろう。西洋のタランテラと朝鮮の伝統音楽が融合されたこの作品をお楽しみ頂きたい。

(2年 金丸璃奈)

ニコライ・リムスキー=コルサコフ(1844~1908)/シェヘラザード

Nikolai Rimsky-Korsakov/Scheherazade

(編曲 岩本伸一)

コルサコフはロシアの作曲家であり、色彩感あふれる管弦楽曲や民族色豊かなオペラを数多く残した。軍人貴族の家庭に生まれ育ち幼い頃から楽才を顕すが、海軍兵学校に入学しロシア海軍に進んで艦隊による海外遠征も体験した。1859年からピアノを始め、1861年にミリイ・バラキエフと出会い、ようやく真剣に作曲に打ち込むようになる。

コルサコフの作品としてもっともよく知られる『スペイン奇想曲』『ロシアの復活祭』などがあるが、今回演奏する『シェヘラザード』はこれらと同じ1880年代後半に書かれたものである。千夜一夜物語(アラビアンナイト)の語り手であるシェヘラザードの物語をテーマとしており、シェヘラザードを象徴するソプラノサクソソロの主題が全楽章でみられる。作者の死後の1910年にロシア出身のバレエダンサー・振付師であるミハイル・フォーキンによってバレエ『シェヘラザード』が制作された。

1楽章では頭力強いユニゾンがシャリアール王の主題、ハープ伴奏のソプラノサクソがシェヘラザードの主題を示す。主部ではうねるような海の様子を表す伴奏音型によって海の主題や船の主題が続く。2楽章のバリトンサクソによる3/8拍子のメロディはカランダール王の主題を示す。カランダールとは諸国行脚の苦行僧のことである。原曲ではトロンボーンやトランペットの力強い響きが特徴的であり、力強く激しく終わる。2楽章とは対照的に3楽章はやさしく穏やかに進んでいく。歌謡的主題をヴァイオリンパートを担当するソプラノサクソ、アルトサクソがゆったりと奏で、中間部ではソプラノサクソが快活な舞曲風の王女の主題を奏する。4楽章では1楽章のシャリアール王の主題がテンポ違いで示されたあとシェヘラザードの主題がそれを受けるところから始まる。前楽章の各主題が回想されつつ徐々に曲は盛り上がっていくが、穏やかに波が引く描写となり「海」の主題を静かに再現し、消え行くように終結する。

(1年 佐藤あおい)

Profile

大井 剛史 (指揮)

東京藝術大学指揮科を卒業、同大学院指揮専攻修了。2009～16年ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉(現・千葉交響楽団)常任指揮者、2009～13年山形交響楽団指揮者、2013～17年同正指揮者を歴任。現在、東京佼成ウインドオーケストラ正指揮者。その他国内主要なオーケストラを指揮し、いずれも高い評価を得ている。現代作品、オペラ、バレエなど、幅広い分野で活動中。

2008年アントニオ・ペドロッチ国際指揮者コンクール第2位。

東京藝術大学音楽学部器楽科非常勤講師(吹奏楽)。

尚美ミュージックカレッジ専門学校客員教授。



洗足学園音楽大学サクソフォン・オーケストラ

1995年、我が国でいち早く合奏授業に取り入れられた、サクソフォンと打楽器から成る同族楽器のオーケストラ。ソプリロ(ソプラノサクソフォンの1オクターヴ上の音域)からコントラバスまで、8種のサクソフォンが使用されている。主に本学主催の成果発表会で保科 洋、秋山和慶、増井信貴、松尾葉子、現田茂夫、梅田俊明、大井剛史、海老原 光、ヤン・バンデルロースト、国内外の著名な指揮者を迎え、管弦楽作品を中心に演奏会を行っている。また東京芸術劇場、横浜みなとみらいホール、ミューザ川崎シンフォニーホールや、国内最大級の音楽祭、ラ・フォル・ジュルネオ・ジャポンに参加するなど活発に活動している。2010年11月にはサクソフォン誕生の地であるディナン(ベルギー)を訪問、ストラスブル(フランス)では交流演奏会を行い、大成功を収めた。サクソフォンならではの繊細かつダイナミックなサウンドを有するこれからの新たな演奏形態として注目され、高い評価を得ている。

これまでオリジナル作品として、長生 淳「翼をひろげて」、ピーター・グレイム「宇宙戦争」、石毛里佳「ブラキスカ」、鈴木純明「キリエ 4.5」各氏に委嘱し、このオーケストラの魅力を世界中に発信する。

2012年イギリスよりP.グレイム氏を迎えて「宇宙戦争」、2014年アドルフサクソ生誕200年を記念して「アドルフ 200」、2016年日本を代表する作曲家保科 洋氏との夢の共演「復興」を(株)フロレスタンよりリリースされ、好評を博している

サクソフーンオーケストラ 出演者

| | | | | | | | |
|----------------|---------------------|---------------------|------------|------------|---------------|--------|--------------|
| Concertmaster | 矢澤 亘 | 伊藤 輝瞳 | | | | | |
| Sopranino | ≪4年≫ 清水 建吾 | ≪3年≫ 中原 雄太郎 | ≪2年≫ 山岸 芽以 | ≪1年≫ 清水 綾乃 | | | |
| Soprano | ≪4年≫ 矢澤 亘 | 伊藤 輝瞳 | 寺東 春美 | | | | |
| | ≪3年≫ 石田 真彩 | 楠本 夢菜 | 山崎 遼介 | | | | |
| | ≪2年≫ 新井 琴乃 | 伊藤 有莉愛 | 金丸 璃奈 | 北島 実幸 | 泉波 陽美 | 平野 未紗 | |
| | ≪1年≫ 阿部 啓康 | 荒木 由布子 | 上田 野亜 | 碓石 七海 | 庄司 凧沙 | 山脇 柚葉 | |
| | ≪院1≫ SHENG LIZHENG | | | | | | |
| Alto | ≪4年≫ 國澤 美空 | 岩城 玄仁 | 伊東 玲美 | 長谷川 愛美 | 山中 杏実 | | |
| | ≪3年≫ 大幸 拓未 | 亀澤 咲葵 | 渋谷 瑛奈 | 鈴木 ましろ | ZHANG XIAOHAN | | |
| | ≪2年≫ 新井 楓花 | 木佐木 桃花 | 吉田 亮佑 | 熊木 萌奏 | QIU QI | | |
| | ≪1年≫ 伊藤 貫矢 | 及川 和音 | 岡島 明里 | 佐藤さく良 | 佐藤 歩希 | 瑞慶山 百恵 | 草本 律音 原田 遥人 |
| | ≪院1≫ ZHANG XIN | | | | | | |
| Tenor | ≪4年≫ 兼重 未唯 | 中條 花音 | | | | | |
| | ≪3年≫ 阿部 未来 | 大澤 茉依 | 志賀 友香 | 下藤 香花 | 中瀬 凱大 | 永吉 すず音 | 八木 寛菜 |
| | ≪2年≫ 植木 里花 | 緒方 柊 | 魏 綺仙 | 桑原 尚紀 | 高矢 真優 | 寺尾 作蔵 | |
| | ≪1年≫ 佐藤 あおい | 佐藤 美櫻 | 清水 くるみ | 高月 万奈美 | 堀口 梨奈 | 本郷 晴葵 | 松田 優希 山口 森太郎 |
| Baritone | ≪4年≫ 岡本 彩花 | 北岡 舞帆 | 久米 愛海 | 酒井 優希 | 重井 拓人 | 薮井 美羽 | |
| | ≪3年≫ 葛城 輝 | 齊藤 溪太 | 鈴木 智尋 | 竹内 勇人 | 吉田 勇雅 | | |
| | ≪2年≫ 西田 大也 | 新田 乙葉 | | | | | |
| | ≪1年≫ GAO QUAN | XIE ZHIBIAO | 佐藤 優有 | 島田 彩花 | 中山 心永 | 山崎 陽介 | |
| Bass | ≪2年≫ 加藤裕貴 | 駒田 雅乃 | 坂井 開 | ≪1年≫ 田中 碧人 | 山本 律希 | | |
| Contrabass | ≪2年≫ 石川堅大 | | | | | | |
| Percussion | ≪4年≫ 杉本 裕香 | 前田 伶弥 | 加藤 海夏太 | | | | |
| | ≪3年≫ 山野 智広 | 江口 和輝 | | | | | |
| | ≪2年≫ 内田 光太郎 | 古仲 咲希 | 田村 夢佑亜 | 土居 祥大 | 廣瀬 歌菜 | 宮下 真凜 | 三好 花梨 |
| Harp | 三谷 真珠子 [†] | 山内 悠里佳 [†] | | | | | ♪…演奏補助 |
| 企画運営責任者 | 岩本 伸一 | | | | | | |
| 指導教員 | 大貫 比佐志 | 貝沼 拓実 | 齊藤 健太 | 田中 拓也 | 本堂 誠 | | |
| | 小川 佳津子 | 山田 徹 | | | | | |
| アカデミックコーディネーター | 古川原 裕仁 | | | | | | |